

平成21年4月

歩み始めた「うみがめクラブ」～その誕生とこれから～

校長 和田 直樹

創立三十周年の節目を迎える本年度、光陵高校は学校活性化・特色化推進事業として「福津市の自然を学ぶ会」(愛称うみがめクラブ)を立ち上げました。以下、クラブ誕生の経緯とこれからにつき、書かせていただきます。

【発想の背景】

昨年四月に光陵高校に赴任して以来、福津市内で産卵或いは生息するアカウミガメやカブトガニ等、環境省絶滅危惧種指定の生物についての報道に、繰り返し接することがありました。例えば、「カブトガニ産卵調査を～つやざき海辺の自然学校・一般参加者を募集～」(H20・5・22西日本新聞)、「カブトガニ産卵ペア急減～福津市の津屋崎干潟市民団体調査～」(H20・8・16西日本新聞)、「ウミガメ今年は産みガメ～福津などで上陸急増・保護の成果?温暖化影響?～」(H20・10・21朝日新聞)、「カブトガニの産卵ペア数が年々減少～市民団体、七日報告会～」(H20・12・4朝日新聞)、「アカウミガメの上陸増加～福津市、九大と追跡調査～」(H20・12・21読賣新聞)等々です。

カブトガニの生息地・津屋崎干潟まで本校から約5km、アカウミガメの上陸産卵地・勝浦海岸までは約8kmです。このほか、本校から約4kmの在自・須多田地区の農業用水路には、貴重な純粋種のDNAを伝えるニッポンバラタナゴも生息しています。

また、これらの貴重な自然を守り、残そうとする地元の人々の熱意も強く、全国的にもユニークな福津市役所「うみがめ課」をはじめ、「福津市うみがめっこの会」(ウミガメ研究・保護)や「つやざき海辺の自然学校」(カブトガニ・ニッポンバラタナゴ研究・保護)等の団体による保護活動が展開されています。さらに、本校から約4kmの津屋崎干潟そばには、九州大学大学院生物資源環境科学府附属水産実験場もあり、福津市の干潟や淡水生物の調査研究が行われています。

前記の報道等に接しながら、ウミガメ課や地元諸団体と情報交換を行うにつれ、地元の高専として本校もこれら貴重な生物種の研究・保護活動に参加協力できないものかとの思いが強まりました。

【誕生とこれから】

昨年末、先生方に「うみがめクラブ」の立ち上げを提案し、大方の賛同を得ました。生徒諸君へは二学期の終業式において校長が資料を配付し説明、クラブへの参加を呼びかけました。その結果、四月時点までに新一年生を含む十四名の生徒諸君がクラブに参加してくれました。本校創立三十周年を機に歩み始めた「うみがめクラブ」が、今後十年二十年先も地道に息長く活動を続け、本校教育活動の特色化・活性化や地域連携・地域貢献に資する多様な成果を挙げてくれることを心から願いながら、この生まれたての「子がめ」をしっかりと育てていきたいと思えます。

【追記】

なお本年二月、「うみがめクラブ」の活動への支援を願い、パナソニック教育財団「第三十五回(平成二十一年度)実践研究助成」に応募しましたところ、見事全国十五の助成高校の一角に選ばれ、五十万円の助成金をいただくことになりました。今後のクラブの実践研究活動の展開に向け、教員・クラブ員ともに大いに力づけられているところです。